

検修・構内業務の全面外注化 10月1日実施を許すな!

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
発行責任者 石井真一 編集者 国分勝之
電話 029-227-6020
FAX 029-227-6291

全面外注化推進するJR東 労組の「組合案」を弾劾する!

JRで働くすべての仲間、とりわけ青年労働者のみなさん！

JR東日本当局は、労働者の怒りによって粉砕された4・1検修・構内業務全面外注化の計画を、今度は「10月1日実施」をもくろんで動き始めている。会社とJR東労組は6月中の妥結を目指して矢継ぎ早に団交を行っている。輸送業務の根幹を担う検修・構内業務の外注化がもたらすのは、鉄道の安全の崩壊だ。「JR労働者は「業務外注化は許せない」「出向には行きたくない」という職場に充満するすべての怒りを結集して、検修・構内業務全面外注化の「10月1日実施」を絶対に阻止する!

全面外注化そのものが間違っている!絶対反対だ!!

JR東労組は5月14日、検修・構内業務全面外注化の「組合案」実現を求める申入れ(申19号)を行い、5月16日、21日、22日と団交を行った。その中で会社側が「全面外注化の10月1日実施」を明言したのだ。

東労組はJR当局と矢継ぎ早に団交を設定し、10・1外注化に向けて本格的に動き始めた。そもそも外注化

そのものが実現不可能なプランである。会社がさらなる低賃金と労働強化を現場に強制し、事故が起これば労働者に責任を押し付けらる。JR本体は「持ち株会社」としてぼろ儲けする。こんなことがまかり通れば職場はめっちゃくちゃになり、鉄道の安全は崩壊することは間違いない。だが、自分たちがいい思いをすることし

か考えていない東労組幹部は、会社のいいなりになって外注化の手先になっていくのだ。絶対に許せない!

ペテン的な東労組「組合案」労働者は騙せないぞ!

東労組が会社に提出した全面外注化に対する「組合案」は、出向・外注化丸呑みを前提とした内容だ。絶対に認められない。「グループ会社での労働条件向上」「基本給の調整を新設し2千円を加えること」「支社またがりの出向は行わない」などの項目が並んでいるが、要するに東労組の立場としては、条件さえ整えば全面外注化を呑むということだ。

そのためには、形だけでも東労組としての要求を示し、組合の「手柄」としたいだけの話だ。こんなもので労働者を出向に駆り立てるとは、どこまで恥知らずな連中か!労働者の怒りと誇りをなめるのもいい加減にしろ!

俺たちの職場を奪うな! 闘って外注化を止めよう!

今回の検修・構内業務外注化は、支社や職場ごとの逐次外注化ではなく一括全面外注化だ。対象となる労働者は新幹線を除いて東日本全体で約2千人。そのうち「約1200人が出向になる」と会社も回答している。管理者と技管、事務を除いて、ほとんどの労働者が強制出向に駆り立てられるのだ。会社に残るのは総合車両センターとごく少数の技管ポストのみとなる。出向が終わっても帰る職場など残されていないのだ。

さらに、最大の矛盾点は偽装請負の問題だ。そもそも、鉄道業務を本体から切り離して検修・構内業務を行うことは絶対にできない。構内入換業務についても信号所からの通告を受けて転線を開始する。しかも、会社も認めているように、業務を受託するグループ会社自体に業務経験や技術力がない以上、外注化が不可能なことははっきりしている。しかも、JR本社は動労総連合(動労千葉・動労水戸・動労連帯高崎)との団交の

中で、「外注会社に必要な機材はJR本社が無償で貸し与える」とまで言っている。外注化・子会社化しても実態はJR本体が業務を全面的にサポートし指揮する、これは明確な偽装請負に他ならないではないか!

外注化・子会社化と、それを通じた労働者の非正規職化は、職場をめっちゃめっちゃにし、労働者をいつそうの無権利状態に陥れていく。要員を減らされ、労働強化が進む中でも必死で安全を守るために頑張ってきた鉄道労働者の誇りを踏みにじり、会社がぼろ儲けして御用組合が旨い汁を吸うために職場から追い出すなどということは絶対に許せない。

動労水戸は強制出向拒否・外注化絶対反対を貫いて闘っている。労働組合とは幹部のためではなく職場で働くすべての労働者のための組織であるべきだ。労働組合の主人公は労働者自身だ。職場の団結と鉄道の安全を守るために、闘うJR労働者は外注化を粉砕する!